

基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同
自然史・古生物学分科会（第21期・第2回）議事要旨

日時：平成21年6月18日（木）15：00～16：20

場所：日本学術会議 5-C（2）会議室

出席：（五十音順、敬称略）：大路、加藤（真）、加藤（雅）、北里、斎藤、西田、林、真鍋、鷺谷、
（事務局）小川

欠席：白山、戸部、長谷川、馬場、馬渡

議題：

- （1） 第1回分科会の議事要旨案を承認した。
- （2） 「日本の展望」について：応用生物学委員会の「日本の展望」のとりまとめを行っている鷺谷委員より現状の概要説明があった。当分科会でメール会議で集約した報告は、応用生物委員会からの文書の末尾に参考資料として添付される予定である。
- （3） COP10 国際多様性年について：応用生物学委員会では提言「生物多様性の保全と持続可能な利用のために」を準備中で、2009 年中に完成させる必要がある。また、学術と社会の対話フォーラム（日本学術会議としては公開講演会と位置づける）を計画している。2009 年10月にプレフォーラムを実施する予定である。提言は（ア）SATOYAMA イニシアティブのような活動の重要性、（イ）生態系を修復する新しい科学の重要性、（ウ）生態系をモニタリングするための国際的ネットワークの重要性、（エ）IPBES (Intergovernmental Panel or Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)の重要性などが含まれる。生物多様性という単語は社会に広く浸透しているものの、その具体的な重要性は理解されているとは言い難い。COP10 をきっかけに学校教育、社会教育を通して、生物多様性のまなざしが国民に広く浸透するような努力が必要だと考えられている。
- （4） サイエンスアゴラについて：応用生物学委員会という名称は、今年度の総会で「統合生物学委員会」に変更される予定である。現在、斎藤成也会員を中心として、統合生物学という概念を社会にアピールするようなシンポジウムが準備中である。
- （5） 第三部の IUGS(International Union of Geological Sciences) 分科会の下に、IPA(International Paleontological Association)小委員会を設置し、6月13日に第1回目の委員会を実施した。本分科会からも5名の委員が参加しているが、生物学と地球科学の統合分野としての古生物学として、当分科会が提唱する「自然史科学」の学校、社会での振興を行う小委員会という役割も期待される。
- （6） 当分科会の情報収集元、また情報提供先として、分科会委員が主に参加する学協会は以下のとおりである。今後、欠席した委員の所属学協会なども追加する：生き物文化誌学会、東京地学協会、日本海洋学会、日本貝類学会、日本花粉学会、日本鉱物科学会、日本古生物学会、日本昆虫学会、日本獣医学会、日本植物学会、日本植物分類学会、日本進化学会、日本生態学会、日本畜産学会、日本地質学会（五十音順）。

以上